

# 日本きのこ学会誌執筆要領

(2022年10月25日改定 2022年11月1日施行)

## 1. 投稿原稿の作成要領

- (a) 投稿原稿は、Wordなどのワープロソフトで作成する。表および図はワープロソフトに加え、ExcelやPower pointで作成したものでよい。
- (b) テキスト原稿はA4版用紙を縦長に用い、上下左右のマージンは2.5 cmとし、下マージンにページ番号を挿入する。  
※2018年現在、1頁は27字×48行×2カラム＝約2,500字(テキストのみの場合)、テキスト3,000字と図4-5枚で、2頁が目安となります。
- (c) フォントは全て12 ptとし、和文の場合はMS明朝、英文の場合はTimes New Romanを基本とする。
- (d) 数字、単位および記号は和文原稿でも半角とする。
- (e) 生物の和名を用いる場合は、本文の初出の箇所では以下の様に明記する。2回目以降は、和名、学名、どちらを用いてもよい。  
(例) シイタケ *Lentinula edodes* は、最も生産量が高いきのこである。
- (f) 外来語、外国の人名・地名(原語によらない場合)はカタカナを用いる。数字は和文原稿でも半角とする。
- (g) 本文中で使用する和文の句読点は、カンマとピリオドとする。
- (h) 論文・ノート・研究レポート、総説、茸伝播は、以下の形式に従い構成する。その他の範疇の原稿は特に形式を定めないが、本誌の最近の掲載例に従って作成することが望ましい。
- (i) ノート、研究レポートの場合は、以下の(d)～(g)の項目分けを行わない。また、総説は、(a)～(d)及び(h)～(m)を必須とする。

## 2. 論文・ノート・研究レポート・総説、茸伝播の構成

- (a) タイトルページ

[和文の場合]

各種農林廃棄物で栽培したクロアワビタケの一種, *Pleurotus cystidiosus* subsp. *abalonus* の収穫後子実体のテクスチャー

Binh Nguyen TRUONG<sup>1, 2)\*, †</sup>・鈴木 彰<sup>3)</sup>・  
中谷 誠<sup>4)</sup>・Xuan Tham LE<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Micro-biotechnology, Tropical Biology Institute in Ho Chi Minh City-Branch of Dalat, 116-Xo Viet Nghe, Tinh Street, Dalat, Vietnam

<sup>2)</sup> 千葉大学大学院自然科学研究科  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

<sup>3)</sup> 千葉大学教育学部  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

<sup>4)</sup> 北海道立林産試験場

〒071-0198 北海道旭川市西神楽 1 線 10 号

<sup>5)</sup> Center for Nuclear Techniques, Vietnam Atomic Energy Commission, 217 Nguyen Trai Street, District 1, Ho Chi Minh, Vietnam

<sup>†</sup> 現在の住所: Division of Micro-biotechnology, Tay Nguyen Institute of Biology, Vietnam Academy Institute of Science and Technology, 116-Xo Viet Nghe Tinh Street, Dalat, Vietnam

\* 責任著者. kinoko@gmail.com

[英文の場合]

Changes in texture of the post-harvest fruit-bodies of an abalone mushroom, *Pleurotus cystidiosus* subsp. *abalonus*, cultivated on different agro-forestry wastes

Binh Nguyen TRUONG<sup>1, 2)\*, †</sup>, Akira SUZUKI<sup>3)</sup>,  
Makoto NAKAYA<sup>4)</sup> and Xuan Tham LE<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Micro-biotechnology, Tropical Biology Institute in Ho Chi Minh City-Branch of Dalat, 116-Xo Viet Nghe, Tinh Street, Dalat, Vietnam

<sup>2)</sup> Graduate School of Science and Technology, Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522, Japan

<sup>3)</sup> Faculty of Education, Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522, Japan

<sup>4)</sup> Hokkaido Forest Products Research Institute, 1-10 Nishikagura, Asahikawa, Hokkaido, 071-0198 Japan

<sup>5)</sup> Center for Nuclear Techniques, Vietnam Atomic Energy Commission, 217 Nguyen Trai Street., District. 1, Ho Chi Minh, Vietnam

<sup>†</sup> Present Address: Division of Microbiotechnology, Tay Nguyen Institute of Biology, Vietnam Academy Institute of Science and Technology, 116-Xo Viet Nghe Tinh Street, Dalat, Vietnam

\*Corresponding author. kinoko@gmail.com

以下、和文、英文共通

- (b) Abstract (英文 200 語以内、ただし、茸伝播の場合は、英文 Abstract, 和文摘要のどちらかを掲載する)
- (c) Key words (英語で 5 語以内をアルファベット順に掲載; 頭文字は大文字で記述)
- (d) 緒言 (Introduction): 論文・ノート・研究レポートはじめに (Introduction): 総説、茸伝播
- (e) 材料と方法 (Materials and Methods)
- (f) 結果 (Results)
- (g) 考察 (Discussion)

※結果と考察 (Results and Discussion) としてもよい。  
※※(e)から(g)は、総説・茸伝播に関しては指定せず任意とする。

- (h) 謝辞 [Acknowledgement(s), 単数と複数を使い分けること]
- (i) 和文の場合：摘要 (和文：400 字以内)  
英文の場合：和文摘要 (400 字以内；和文の題名，著者名，所属および住所も記述するが，これらは 400 字に含めない.)  
茸伝播の場合：摘要，和文摘要は，この位置にはなし.
- (j) 引用文献 [Reference(s)]
- (k) 表 Table [(s)]
- (l) 図の説明 [Figure legend(s)]
- (m) 図 Figure [(s)]

### 3. 文献の本文中での引用方法

和文，英文共に上付きの片括弧数字で示す.

- (例) シイタケの栽培の報告は，1 つしかない<sup>1)</sup>.  
シイタケの栽培の報告は，多数存在する<sup>1-5)</sup>.  
シイタケの栽培の報告は，多数存在する<sup>1,3,5)</sup>.

### 4. 引用文献 [Reference(s)] の作成方法

- (a) 引用文献リストは，本文中で引用した順に片括弧数字で作成する.
- (b) 和文原稿であっても，引用文献が英文の場合，英文でそのまま引用してよい.
- (c) 英語以外の外国語の論文等の引用は，著者名，タイトル，雑誌名等を全て英語で表記し，引用の最後に該当言語名を括弧書きで明記する. 例，(in Russian)
- (d) 英文原稿において，日本語の雑誌，著書等を引用する場合，和文単行本名，雑誌名，公文書名，出版社名等は，原則としてローマ字で，そのまま表記し英訳の必要はない. 雑誌名，論文タイトル等，英文のあるものは，そちらを使ってもよい.
- (e) 英文原稿における日本語論文等では，引用の最後に日本語であることを括弧書きで英文で明記する. 例，(in Japanese)
- (f) 掲載決定の公式通知を受けた未公表の論文等は引用しても構わない. ただし，その場合の表記方法は，雑誌名または書名のあとに「(印刷中)」，または「(in press)」と記述する. 投稿中のものは，引用できない.
- (g) 著書
  - ① 編集，監修，翻訳は「今関六也・本郷次雄 (編)」，「本郷次雄 (監)」，「川喜多正夫 (訳)」あるいは「Imazeki, R and Hongo, T (eds)」のように表記する. 英文表記では監修者と編集者を区別する必要は特になく，すべて「ed (s)」と記述する. 5 名以上の編者がいる場合を除きすべての編者名を記述する. 編者が 5 名以上になる場合に限り，5 名の編者名に続けて「他」あるいは「et al.」を続けて記述することで代替することができる.
  - ② 初版を除き「第 4 版」等と明記する. 英文表記では「4th edn」等とする.

- ③ ページ数の表記は，以下の例による.
  - 例 1. 333 p 全 333 頁の書籍を全体を引用
  - 例 2. p 222 222 頁 1 頁のみを引用
  - 例 3. pp 94-108 94 頁から 108 頁までを引用
- ④ その他については，以下の例による.
- ⑤ 引用文献 (著書) の例
  - 1) 小川 真：マツタケの生物学，補訂版，築地書館，東京，333 p (1991)
  - 2) 吉田 博：きのこの化学成分特性，「きのこの基礎科学と最新技術」，第 4 版，(きのこ技術集談会編集委員会編)，農村文化社，東京，pp 94-108 (1991)
  - 3) 山中勝次：キノコ好きの調理法，「キノコ・ワールド最前線」，東京書籍，東京，p 222 (2003)
  - 4) Wang, Y, Cummings, N and Guerin-Laguette, A: Cultivation of basidiomycete edible ectomycorrhizal mushrooms: Tricholoma, Lactarius, and Rhizopogon. In Zambonelli, A and Bonito, G M (eds), Edible ectomycorrhizal mushrooms, 5th edn, Current knowledge and future prospects, Springer, Berlin Heidelberg, Germany, pp 281-304 (2012)
  - 5) Freifelder, D:「分子生物学の基礎」，川喜多正夫 (訳)，東京化学同人，東京，pp 61-64 (1989)
  - 6) Hongo, T: Benitakeka (Russulaceae), In: Imazeki, R and Hongo, T (eds), Genshoku Nippon Shin Kinrui Zukan (II) (Colored illustrations of mushrooms of Japan), Vol 2, (in Japanese), Hoikusha, Osaka, Japan, pp 82-91 (1989)
- (h) 原著論文，総説等
  - ① 和文雑誌名は，省略しない.
  - ② 英文雑誌名は，略称を用いる. 雑誌名の略称は，PubMed のジャーナルデータベース；<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/sites/entrez?db=PubMed> に従う. なお，日本きのこ学会誌は Mushroom Sci Biotechnol と表記する.
- ③ 引用文献 (論文) の例
  - 1) Maekawa, N: Ypsilonididium bananisporum sp. nov. (Ceratomyces) from Iriomote Island, Japan, Mycoscience, **38**, 71-73 (1997) <https://doi.org/10.1007/BF02464970>
  - 2) Hidaka, F, Li, Y, Shimomura, N, Maeta, K, Nagase, M and Aimi, T: Development of semi-direct polymerase chain reaction method for mushrooms, Mushroom Sci Biotechnol, (in press) (2010) (in Japanese)
  - 3) 常盤俊之・廣岡裕史・広瀬 大・岡田 元：日本産ボタノタケ科菌類 *Sphaerostilbella* および *Hypomyces* 属菌，日本菌学会会報，**58**，(印刷中) (2017) <http://doi.org/10.18962/jjom.jjom.H28-05>
  - 4) Tokiwa, T, Hirooka, H, Hirose, D and Okada,

G: *Sphaerostilbella* and *Hypomyces* species (Hypocreaceae) from Japan. *Jap J Mycology*, **58**, (in press) (2017) <http://doi.org/10.18962/jjom.jjom.H28-05>

5) Takabatake, K, Igarashi, K and Samejima, M: Recycle Utilization of Waste Sawdust Substrate for Sawdust-Based Cultivation of *Herichium erinaceum*. *Mokuzai Gakkaishi*, **54**, 327-332 (2008) <http://doi.org/10.2488/jwrs.54.327>

(i) 公文書, 通達, 統計情報等

公文書, 通達, 統計情報等を引用する場合は, 出版物または, インターネット上で電子版が公開されているものに限る.

1) Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries: Annual report on trends in forest and forestry in Japan (2009) [http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/21hakusho/pdf/21\\_e.pdf](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/21hakusho/pdf/21_e.pdf)

2) 林野庁: 平成 28 年度の主要な特用林産物の生産動向 (2016) URL: <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001191364>,

(j) 学位論文, 国際会議プロシーディング及び講演要旨集の引用は原則認めない.

#### 5. 単位の取り扱い

数字はアラビア数字を用い, 数量の単位は, 原則として国際単位系 (SI) を用いる.

ただし, 表 1 に示した範囲で非 SI 系の単位の使用を認める.

#### 6. 物資名の取り扱い

(a) 和文論文における化学物質名の表記は, 原則として, カタカナあるいはカタカナと漢字の混交, もしくは元素記号, 化学式とする.

(b) 英文論文における化学物質名の表記は, 原則として, 英語もしくは元素記号, 化学式とする.

(c) 同一原稿中では, 可能な限り化学物質名の表記方法の混用は行わない. 略記する場合は, 初出時に断り書きをする. 表 2 には定義せずに使用できる物質名の略称を示した.

#### 7. 学名の取り扱い

学名の属名以下はイタリック体表示する. 再出する場合, 属名は文頭にくる場合を除き頭文字 1 字 (本文中で異なる属名のアルファベットが同一となる場合は区別のため最少字数とする) のみとする. 必要があれば, 再出時でもスペルアウトしてもよい.

培地材料となる生物名もきのこの学名と同様に表記する. 英文論文でも Shiitake のような common name のみの表記を認めるが, 本文の初出の箇所では学名を併記する.

#### 8. 培地名の取り扱い

略記を用いる場合は, 初出時に断り書きをする. 天然物由来の混合物質 (培地素材を含む) は, 論文表記事項だけで追試を可能とさせる情報のすべてを記述する. 例えば, 「実験材料」の部分で, 生産メーカー名を表記する. また, おが粉のように粉末状, 顆粒状の培地素材においてはメッシュサイズ等を明記する.

#### 9. 略号, 単位の取り扱い

略語 略語を用いる場合には初出時に正式名称を表記 (スペルアウト) すること.

2 回目からは略名で表記する.

量単位 国際単位系 (SI) を用いることが望ましい

#### 10. 別刷り等

別刷りが必要な著者は, 著者校正時に編集委員会に申し出る.

#### 11. 英文校正料等

英文校正料等とその他の有償経費 (英文校正料, 投稿料, 超過頁料, カラー掲載料, 別刷り代金) の請求は, 印刷所が編集委員会に代行して行なう.

表 1. 本誌での使用を推奨する単位の表記例.

長さ m, mm,  $\mu\text{m}$ , nm 等  
面積  $\text{m}^2$ ,  $\text{cm}^2$ ,  $\text{mm}^2$  等  
[必要であれば a, ha も使用可]  
体積  $\text{m}^3$ ,  $\text{dm}^3$  (あるいは L),  $\text{cm}^3$  (あるいは mL),  $\text{mm}^3$  等  
波長 nm ( $\mu\text{m}$  や Å は使用不可).  
時間 yr (yrs としない), mo, wk (wks としない), d, h (hrs としない), min, s (sec としない), ms,  $\mu\text{s}$  等  
注: 図・表では, タイトル部分を除きこれらの略記 (略号) を用いること. ただし, 本文中では, これらの略記 (略号) は必ずしも用いなくてもよい.  
周波数・振動数 Hz  
質量 kg, g, mg,  $\mu\text{g}$ , pg 等  
[必要とあれば t も使用可]  
分子や原子の質量 Da  
密度  $\text{g}\cdot\text{cm}^{-3}$   
力 N ( $\text{kg}\cdot\text{m}\cdot\text{s}^{-2}$ )  
エネルギー J  
[必要であれば cal も可とするが, 使用は極力避けること]  
圧力 Pa ( $\text{N}\cdot\text{m}^{-2}$ )  
沈降係数  $S=10^{13}\text{s}$   
粘性  $P=0.1\text{ Pa}\cdot\text{S}$   
仕事率  $W:\text{kg}\cdot\text{m}^2\cdot\text{s}^{-3}$   
物質質量 mol, mmol,  $\mu\text{mol}$  等  
濃度 M, mM,  $\mu\text{M}$ , pM 等  
[濃度の表示は相対的な比率表示の %, ppm, ppb, ppt でもよい. ただし, 後者にあつては, 体積基準か重量基準化を明記すること.]  
(例) [ppm (v/v), おが粉: 米ヌカ [生重 (fresh wt)/ 生重 (fresh wt)], 酢酸: エタノール (v/v), 10% 硫酸銅五水和物 ( $\text{CuSO}_4\cdot 5\text{H}_2\text{O}$ ) 水溶液 [化学物質濃度は, 特に断らない限り重量比]  
温度  $^{\circ}\text{C}$   
[温度に限り, SI の基本単位である K は, 特に必要な場合を除き用いない.]  
電流 A  
電圧 V  
抵抗  $\Omega$   
光度 cd  
照度 lx  
[光質の影響があるので, 光の強度の代用にはならないが, 光質が限定できる場合は必要に応じて使用可]  
紫外線照射量  $\text{J}\cdot\text{cm}^{-2}$   
放射能の量 Bq  
放射線の吸収線量 Gy  
放射線の線量当量 Sv

表 2. 定義なしに利用可能な物質の略号.

ADP (adenosine 5'-diphosphate)  
AMP (adenosine 5'-monophosphate)  
BSA (bovine serum albumin)  
cAMP (cyclic adenosine 3',5'-monophosphate)  
ATP (adenosine 5'-triphosphate)  
ATPase (adenosine triphosphatase)  
CDP (cytidine 5'-diphosphate)  
CMP (cytidine 5'-monophosphate)  
CoA (coenzyme A)  
CTP (cytidine 5'-triphosphate)  
DEAE (diethylaminoethyl)  
DNA (deoxyribonucleic acid)  
DNase (deoxyribonuclease)  
EDTA (ethylenediaminetetraacetic acid)  
FAD (flavin adenine dinucleotide)  
FMN (flavin mononucleotide)  
GDP (guanosine 5'-diphosphate)  
GMP (guanosine 5'-monophosphate)  
GTP (guanosine 5'-triphosphate)  
IDP (inosine 5'-diphosphate)  
IMP (inosine 5'-monophosphate)  
ITP (inosine 5'-triphosphate)  
NAD, NAD<sup>+</sup> (nicotinamide adenine dinucleotide)  
NADH (reduced NAD)  
NADP, NADP<sup>+</sup> (nicotinamide adenine dinucleotide phosphate)  
NADPH (reduced NADP)  
NMN (nicotinamide mononucleotide)  
RNA (ribonucleic acid)  
mRNA (messenger RNA)  
rRNA (ribosomal RNA)  
tRNA (transfer RNA)  
RNase (ribonuclease)  
TDP (thymidine 5'-diphosphate)  
TMP (thymidine 5'-monophosphate)  
Tris (tris (hydroxy methyl)aminomethane)  
TTP (thymidine 5'-triphosphate)  
DDP (uridine 5'-diphosphate)  
UMP (uridine 5'-monophosphate)  
UTP (uridine 5'-triphosphate)  
† その他, 核酸塩基の略称  
タンパク質を構成するアミノ酸の略称

表 3. 定義せず使用可能な略語.

BOD (biochemical oxygen demand)	ppm (parts per million)
bp (base pair)	ppt. (precipitate)
ca.(about)	Rf (distance traveled by zone, divided by distance traveled by solvent front)
cf. (compare)	rpm (revolution per minute)
COD (chemical oxygen demand)	RQ (respiratory quotient)
concn (concentration; 表中の見出し及び図中のみ使用可)	SD (standard deviation; STDEV は用いない)
contr. (control; 表中の見出し及び図中のみ使用可)	SDS-PAGE (sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis)
cpm (counts per minute)	SE (standard error)
DO (dissolved oxygen)	SEM (scanning electron microscope)
dpm (disintegration per minute)	sec- (secondary; 有機物質名にのみ使用可)
ed. (editor; pls. eds.; 引用文献中ではピリオドなし)	sp. (pl.spp.) (species)
edn. (edition; 引用文献中ではピリオドなし)	TEM (transmission electron microscope)
e.g. (for example)	temp (temperature; 表中の見出しおよび図中のみ使用可)
ELISA (enzyme-linked immunosorbent assay)	tert-(t-) (tertiary; 有機物質名にのみ使用可)
Eq. (pl.Eqs.) Equation (特定公式に言及する際のみ使用可; e.g. Eq. 2)	TLC (thin-layer chromatography)
et al. (and others) (原則として本文中の引用の際のみ使用可; 著者が 3 名以上の場合に限る.)	UV (ultraviolet)
etc. (et cetra; and so on)	vol. (pl. vols.) (volumes; 前後いずれかに数値が続く場合のみ使用可. 引用文献中では v を大文字としピリオドなし)*
expt. (pl. expts.) (特定の実験番号に言及する時のみ使用可)	vs. (versus)
FR (far red)	vvm (volume per volume per minute)
GC-MS (gas chromatography-mass spectrometry)	wt (weight)*
HPLC (high-performance liquid chromatography, high-pressure liquid chromatography)	* 組成比を表記する場合のみ v/v, v/w, w/v, w/w と略記する.
i.e. (that is)	
IR (infrared)	
LD50 (lethal dose, median)	
max. (maximum)	
min. (minimum)	
MLD (minimum lethal dose)	
<i>m</i> -, <i>p</i> -, <i>o</i> -, (meta-, para-, ortho-; 有機物質の場合のみ使用可)	
m.p. (melting point)	
MS (mass spectrometry)	
m/z (mass-to-charge ratio)	
<i>n</i> - (normal; 有機物質の場合のみ使用可)	
NMR (nuclear magnetic resonance)	
no. (number; 本文中で数値が後ろにある場合, 表中の見出しおよび図中のみ使用可. # は数値が後ろに続く場合のみ使用可)	
NUV (near ultra violet)	
OD (optical density)	
% (percent; 数値が後ろに続く場合のみ使用可)	
opt. optimum	
p. (pl.pp.) (page; 引用文献中ではピリオドなし)	
PCR (polymerase chain reaction)	
ppb (parts per billion)	

注：図・表では、タイトル部分を除きこれらの略記（略号）を用いること。ただし、本文中では、これらの略記（略号）は必ずしも用いなくてもよい。